

2022 年度
愛知県新体育館整備・運営等事業の取組状況について

本資料は、株式会社愛知国際アリーナが作成した事業報告書の記載を基に、愛知県としての分析・評価等を追加したものです。

1 事業概要

(1) 目的

現愛知県体育館は、夏の風物詩にもなっている大相撲名古屋場所の開催などを通じて、半世紀以上県民に親しまれている施設であるが、老朽化とともに規模・機能がスポーツの国際大会を開催するための国際基準を満たしていない。

このため、2026年のアジア競技大会・アジアパラ競技大会を始めとした国際大会に利用できるよう、愛知県新体育館の整備を進める。

整備から運営まで民間のノウハウや創意工夫を最大限に活用するPFI手法を導入し、スポーツやエンターテインメントのコンテンツを呼び込み国内外からの多くの集客につなげるとともに、県民のスポーツ・文化活動の拠点として「愛知・名古屋のシンボル」となる世界最高レベルのスマートアリーナとする。

(2) 事業手法

事業方式：PFI手法「BTコンセッション方式」

事業期間：設計・建設 2021年6月から2025年3月（3年10ヶ月間）

維持管理・運営 2025年4月から2055年3月（30年間）

事業者名：（株）愛知国際アリーナ

代表企業：＜設計・建設時＞ 前田建設工業（株）

＜維持管理・運営時＞ （株）NTTドコモ

2 施設の概要

施設名：愛知県新体育館（愛知国際アリーナ）

所在地：名城公園北園の一部（名古屋市北区名城一丁目地内）

設置根拠：愛知県スポーツ施設及び社会教育施設条例

設置目的：スポーツの振興及び県民の文化的教養の向上を図る

供用開始：2025年夏（予定）

施設概要：計画地面積 約46,000 m² 建築面積 約26,500 m²

延床面積 約63,000 m² 階 層 4階（地上5階建）

最高高さ 41.0 m

メインアリーナ 約4,600 m²

サブアリーナ 約2,600 m²（多目的ホールとの合算）

最大収容人数17,000人（立ち見含む）

3. 業務別の主な取組内容（2021～2022年度）

（1）設計・建設業務

ア 業務概要

愛知県新体育館の設計・建設及びそれに伴う法令等で必要とされる手続きを行う。

イ 主な取組内容

- ・ 2021年6月に基本設計を完了した。
- ・ 2022年6月に実施設計を完了し、指定確認検査機関へ建築確認申請を行い、6月29日に確認済証の交付を受けた。
- ・ 法令で必要とされる申請・届出を適切に処理した。
- ・ ユニバーサルデザインに関する検討を進め、障害者団体等との意見交換を2021年12月、2022年4月、6月、11月・12月の計4回実施し、設計に反映させた。
- ・ 適切な環境配慮、施設の省エネルギー化、防災性能の向上を図り、CASBEE名古屋においてSランクを取得した。
- ・ 建設工事の着手前に、近隣の学区を対象に住民説明会を4回開催した。
- ・ 2022年7月14日から建設工事に着手し、杭工事、躯体工事等を実施した。
- ・ 2022年度末時点の進捗率は11.6%であった。着工時の計画では12.9%であったが、労務不足の影響の他、施工上の不具合（コンクリートの強度不足）の是正を行った影響により、計画値を若干下回った。
- ・ 2023年3月に指定確認検査機関による中間検査を受検し、3月23日に中間検査合格証の交付を受けた。
- ・ 備品の内容を整理し、県との協議を開始した。

【愛知県による分析・評価】

設計業務については、基本設計及び実施設計を予定通り終え、法令上の手続きを完了させた。

建設業務については、県が実施する埋蔵文化財発掘調査（契約期間：2021年12月～2022年6月）との調整に協力し、着工時期を遅らせることなく工事着手させることができた。

工事に関連する監理業務については、毎月の連絡会議で適切に監理報告がされている。

2022年度は1階床部分の一部工区においてコンクリート強度不足の不具合が報告されたが、是正措置を行い、再発防止策が講じられていることから、品質に影響はないと報告を受けている。

また、労務不足も回復傾向にあり、工程の見直しが図られていることから、竣工時期への影響もないとの報告があった。

今後もチェック体制を強化し、工事を進めること。

ユニバーサルデザインに関しては、2021年度、2022年度を通して複数回の意見交換会を開催しており、計画の改善が図られているが、引き続き関係団体を始めとする県民の意見を取り入れながら、より多くの県民が利用しやすい施設となるよう取り組むこと。

さらに、県産材の活用、環境配慮、防災拠点の確保など、設計建設（設備・備品を含む）に関して提案した内容の実現に向け、引き続き検討を進めること。



起工式における鍬入れの様子 【2022年7月7日】

(2) 開業準備業務

ア 業務概要

施設の整備後、速やかに施設の維持管理・運営業務に移行できるよう、開業に向けた各種準備を行う。

イ 主な取組内容

- ・ 2022年7月から建設工事現場事務所内に（株）愛知国際アリーナの仮事務所を設置した。
- ・ 必要な規約・計画を定め、県から指定管理者の指定（2022年11月1日～2055年3月31日）を受けた。
- ・ 2023年3月までに利用料金（一般・興行）の設定を行った。
- ・ 予約の調整方法について、近隣他施設の状況を調査した。
- ・ 施設プロモーション資料の準備を開始した。
- ・ 名城公園関係者の連絡会議や名古屋市の関係部局との協議に参加し、情報交換を行った。
- ・ 各種競技団体に対して利用希望調査を行い、誘致活動を実施した。また、音楽関係団体に向けた施設説明会を実施した。
- ・ セールス活動の企画検討（戦略・ターゲットリスト等）を実施した。
- ・ 飲食サービスの要件定義を検討し、情報提供依頼・提案依頼を実施した。
- ・ ホスピタリティエリア（スイート、プレミアムシート）及びスポンサー向けの商品企画検討を実施した。
- ・ ICT機器調達の準備として、要件定義を検討し、情報提供依頼・提案依頼を実施した。

【愛知県による分析・評価】

開業準備業務については、県との協議を経て指定管理者の指定や利用料金の設定が行われ、運営に向けた基礎的な事項の設定が進んでいる。

また、イベント誘致に向けた活動やプロモーション資料の準備が、概ね事業者の想定するスケジュール通りに進捗していることが確認できた。

当施設で開催されるイベントやその利用料金については、県民の関心も高いため、今後諸室利用料金の設定なども含め、本格的なアリーナの稼働に向けた準備を滞りなく進めること。

(3) 統括マネジメント業務

ア 業務概要

業務全体の一元的管理を担い、本事業全体を安定的かつ円滑に進捗させるため、年度業務計画の作成や、各種業務に関するモニタリングを実施する。

また、組織全体の予算管理、財務諸表の作成、監査・決算対応などの総務・経理業務及び各種会議体の運営、人員採用・研修等の人事関連業務を行う。

イ 主な取組内容

- ・ 年度業務計画を管理し、主要な契約締結を適切に進めた。
- ・ 事業進捗に合わせて採用活動を実施し、人員体制を強化した。
- ・ 外部有識者で構成する第三者諮問委員会を設置し、三次モニタリングを実施した。
- ・ ガバナンス計画に基づき、県との協議会及び第三者機関会合を開催した。
※詳細は「4. 本事業におけるガバナンスについて」参照
- ・ 会計監査人の監査を適切に実施し、6月には本決算を株主総会で報告した。

【愛知県による分析・評価】

事業者自身によるセルフモニタリング、監査役会による第二次モニタリング及び外部有識者による第三者モニタリングを適切に実施し、県への報告が適切になされている。

その他、業務実施体制の確保や、総務・経理業務においても特段の問題は確認されていない。

実施体制については、世界的なエンターテインメント企業でもあるAEG（アンシュッツ・エンターテインメント・グループ）とマネージメントアグリーメント契約を締結し、フォローをより強く受けられる体制を確保するなど、当初の提案内容にとどまることなく意欲的に取り組んでいることが確認できた。

引き続きグローバルレベルのアリーナの実現に向けて、事業を推進していただきたい。

4. 本事業におけるガバナンスについて

(1) ガバナンス実施体制について

本事業において、県と事業者で合意した特定事業契約上のガバナンス基本計画に基づき、各種会議体を設置している（下図のとおり）。事業者は各業務の進捗状況等に関するセルフモニタリングを行い、結果を会議体の場で県に報告する。

県は、報告内容の確認や現地確認等により、要求水準書の充足についてモニタリングし、必要に応じ、是正措置（注意、是正指導、是正勧告）及びペナルティポイントの計上、違約金の請求を行う。

また、外部統制の仕組みとして、複数の有識者により構成する第三者機関を設置し、客観的な立場から県と事業者の協議促進、相互信頼の構築・回復を図るための助言を受けることとしている。

【図：各種会議体について】

会議体名	参加者	開催頻度
協議会	県スポーツ局長	不定期（最低年1回程度）
	事業統括責任者	
事業調整会議	県スポーツ局愛知国際アリーナ課長	半期に一度程度
	事業実施責任者	
連絡会議	県スポーツ局長が指名するもの	月一度程度
	代表取締役社長が指名するもの	

(2) 各種会議の実施状況について

- ・ 協議会（2021年度2回開催、2022年度2回開催）
主要な事業の進捗状況の報告や財務状況の確認を行った。
- ・ 事業調整会議（2021年度1回開催、2022年度1回開催）
主に任意事業の進捗状況を確認した。
- ・ 連絡会議（原則毎月1回開催）
各業務の進捗や課題等を確認した。
- ・ 第三者機関会合（2021年度1回開催、2022年度1回開催）
事業全般の進捗状況等を報告し、ガバナンスの強化等について意見や助言を受けた。

【愛知県による分析・評価】

ガバナンスに関する取組については、年間を通じて適切に行われており、是正措置（注意、是正指導、是正勧告）、ペナルティポイントの計上、違約金の請求に該当する事案はなかった。

5. 総評

【愛知県による年間総評】

2021年度～2022年度は開業までの準備段階の年度であり、施設の設計、建設が進むとともに、運営に向けた準備が行われた。

アリーナ本体工事が着々と進む中、開業準備の本格化に向けた人員体制強化を行うなど、施設面と運営面の両面において、準備が着実に進んでいることが確認できた。

全体としては順調に事業が推進されているところであるが、開業まで残り2年を切る中、今後はイベント誘致を一層本格化させ、開業後に各種イベントがしっかり開催できるように準備を加速させること。

【総合評価】

概ね期待どおりの水準で施設運営がなされている。

※「愛知県指定管理者制度ガイドライン」で示された評価基準（4段階評価）による



外観パース図（2022年度時点）